



# 子ども樹木博士 ニュース

2024 - 6

No. 95

子ども樹木博士認定活動推進協議会

## 巻頭言



## 嗅覚を頼りに・・・



林野庁経営企画課国宥林野総合利用推進室長 尾前 幸太郎

五感を使って樹木を覚える重要性については、本誌でも度々触れられていますが、五感といっても視覚以外で樹木を判別するには嗅覚が頼りになると思います。

私の場合、嗅覚を使って最初に覚えた樹木はクワ（桑）です。私が小学校低学年の頃、学校でもらったカイコを育てるために、桑の木を探したのがきっかけです。養蚕が行われている地域以外で桑を探すのは子供にとって容易ではなく、当時大変苦労した思い出があります。学校でカイコと一緒に貰った桑の葉を見本にしてこれと同じものを探す訳です。しかしながら、近所には同じような形をした葉を付けている樹木が見つからず、途方に暮れてしまい、父親に助けを求めました。すると、「桑ならあちこちにあるよ」と言ってその木を教えてくださいましたが、どう見ても違う木のように見えました。学校からもらってきた桑の葉には大きな切れ込みがあるのに、父が教えてくれた木の葉にはそのような切れ込みは無く、葉の縁がギザギザしているだけです。それでも半信半疑でカイコに与えると、確かに良く食べてくれます。本誌を読んでいる会員の皆様であれば、その謎はすぐに解けると思いますが、父親が教えてくれた木は紛れもなく「クワ」でした。桑の葉は、幼木や成木、その他個体差などによって形状が違ってきます。また、葉の見ただけならクワ

に似たような別の樹木、草本も様々あります。当時の自分の拙い判別力で桑の木（葉）を見分けるには、葉の形だけで覚えるのではなく、カイコになった気分で匂いを嗅いでそれが桑であるかどうかを判別の方が確実にだと何となく覚えたのがその時でした。

匂いで判別するという方法は、身近なところでも大変役に立ちます。この時期、ギョウジャニンニクと間違っってイヌサフランを食べてしまったことによる食中毒のニュースをよく耳にします。イヌサフラン以外にもギョウジャニンニクと混同しやすい植物としてはスズランもあり、こちらも誤って食べてしまうと死に至るような猛毒を持つことが知られています。これらの植物も、匂いを嗅いでみれば、ギョウジャニンニクとの違いは簡単に判ります。命にも関わることなので、見た目の判断に頼らない習慣は大切だと思います。

命に係わるようなことではなくても、匂いで判別する方法は樹木を覚える上で大変役に立ちますので、子供たちには、その植物から得られる情報を最大限活用して学んでもらいたいものです。例えば、目隠しをして樹木の標本を触ったり匂いを嗅いだりして名前を当てる試験などは大変面白いと思いますのが、いかがですか？

## 【目次】

巻頭言	味覚を頼りに・・・	林野庁経営企画課国宥林野総合利用推進室長	尾前 幸太郎	… 1
特集Ⅰ	ササの話(2)ー積雪とササの分布ー	森林生態研究者	新山 馨	… 2
特集Ⅱ	高尾山で出会う、ちょっと気になる植物(1)	森林インストラクター	宮入 芳雄	… 3
シリーズⅠ	樹木名の話(33)ーハナゾノツクバネソウは長すぎる名かー	森林植物研究者	埜田 宏	… 4
シリーズⅡ	観察会テンバリ日記(33)	森林インストラクター・樹木医	岩谷 美苗	… 5
シリーズⅢ	東南アジアの木々たち(60)ーモクレン科の花たちの工夫ー	自然と植物の観察会 TREECIRCLE	梅本 浩史	… 6
子ども樹木博士質問コーナー(75)		(一社)日本森林インストラクター協会	会長 寺嶋 嘉春	… 7
事務局だより	.....			8





## ササの話 (2) —積雪とササの分布—



森林生態研究家 新山 馨

日本における植物の分布は、積雪と切っても切れない関係にあります。特に日本海側の山地帯では、4mを超えるような積雪も珍しくありません。したがって、ブナとイヌブナ、ヤマモミジとオオモミジのような樹木から、ユキツバキとヤブツバキ、ハイイヌガヤとイヌガヤのような低木、スミレサイシンとナガバノスミレサイシンのような草本まで、日本海側と太平洋側に分布が分かれる植物はたくさんあります。

類の著しい食害を考えると、これまで日本各地でササが果たしてきた生態的機能が失われていく心配があります。普段は邪魔なだけのササかもしれませんが、土壌の流亡を防いだり、鳥類や昆虫に生息地を提供したり、森林生態系の炭素固定に貢献したりといった重要な機能が、将来、大きく損なわれる心配もあります。

さらに過去の気候変動による植生変化を花粉分析で見ると、遠い過去においてはササ属からネザサ属への交代、逆にネザサ属からササ属への交代が起こっていたことが知られています。美しい花が咲くわけでも、美味しい果実が実るわけでもない地味なササの仲間ですが、日本の森林の現状や将来を考える上では大事な植物だと思います。分類が難しいのが玉に傷ですが、ひどい笹藪だなど思いながらも、ササの役割を考え直すのも悪くはありません。

ササ類も同様に積雪の影響で、日本海側にはチマキザサやチシマザサが、太平洋側にはミヤコザサやスズタケが分布します(図1)。このような分布の特徴は植生の背腹性と呼ばれます。日本のブナ林が、ブナ-チシマザサ群集とブナ-スズタケ群集に分けられることからわかるように、ササの種類の違いは重要な植生の指標です。このような積雪とササの分布の関係は、ササの芽の着く高さから説明されています。芽が越冬するためには、雪に埋もれて寒風から保護されることが大事です。芽の位置が高く、稈の上部で分枝するササほど、積雪の多い地域でなければ越冬できません。したがって、芽の高さの順、チシマザサ、チマキザサ、ミヤコザサの順に積雪の多いところから少ないところにかけて分布することになります。

しかし気候変動によって温暖化が進むと、積雪は減ることが予想されます。そうするとブナ林の減少と同時に、ササ類の分布も変化していくことが予想されます。さらに最近のシカ個体数の増加による林床のササ

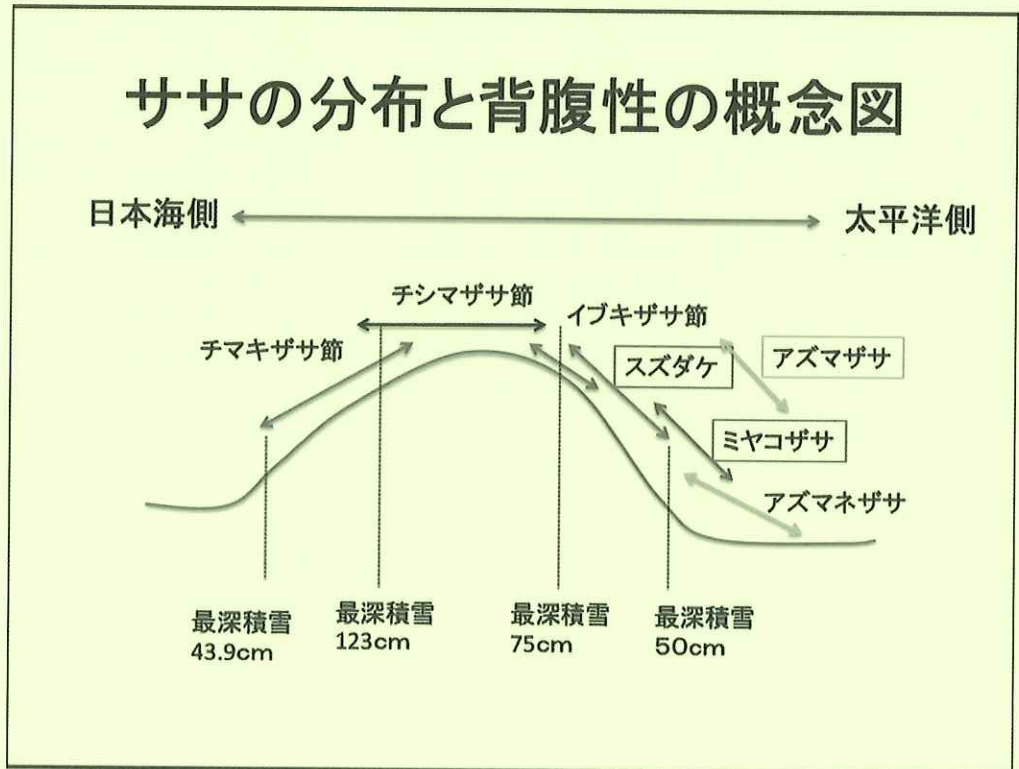


図1 ササの分布の模式図  
ミヤコザサとスズタケの数字は分布の上限の最深積雪を、チマキザサ節とチシマザサ節の数字は分布の下限の最深積雪を示している



## 特集Ⅱ

高尾山で出会う、  
ちょっと気になる植物(1)

森林インストラクター 宮入 芳雄

## ●タカオヒゴタイ（高尾平江帯）

標高 599 m という低山ながら東京都民に最も愛されている「高尾山」。北斜面は冷温帯の落葉広葉樹林、南斜面は暖温帯の常緑照葉樹林が広がっています。そのためシダ植物も含め約 1,600 種の植物が生育しています。そんな高尾山で出会うちょっと特徴ある植物を紹介したいと思います。

最初に登場するのは「タカオヒゴタイ」です。高尾山で最初に発見され、1909 年に命名発表されたキク科の植物。ちょっと頼りないアザミの花という感じで、関東南西部に分布しています。ところが高尾山中を歩いていてもなかなか出会うことがありません。理由は自分が生育する場所を選ぶからです。北斜面の少し湿った場所で、直射日光は嫌だがある程度の日差しは欲しい。そんな場所は他の植物にとっても良い環境です。でもそれらの植物と競い合って生きる力が全く無い。本当に自分で生きていく能力がないのに注文ばかりつけている我儘なお嬢様といった所でしょうか。秋、9 月～10 月に掛けて花を咲かせるのですが、蕾を付けてから開花するのに時間が掛り過ぎる。まったくイライラさせられます。そして競争力が弱いので、発生しても数年で消えてしまいます。

そんな我儘なお嬢様のタカオヒゴタイを守る活動を 6 年ほど前から行っています。担当しているのは林野庁高尾森林事務所。自生が確認された 2 か所でタカオヒゴタイ優先の環境整備をしています。まず覆い被さっているモミジイチゴ、コゴメウツギ等の低木を剪定します。やり過ぎると明るくなり過ぎるので、その辺が難しい所です。そしてシダ類（主にベニシダ）。



案外地表を支配しています。申し訳ありませんが、ここでは遠慮してもらいます。

そうした結果、数株だったタカオヒゴタイの数が増えました。せっかくだから来山者の皆さんにも鑑賞していただきたいと思います。自生地 2 か所の内 1 か所は 4 号路です（もう 1 か所は秘密です）。「浄心門」から約 50 m。花は秋ですが、バイオリン型の根生葉で見分けられます。でも盗掘は止めて下さいね。絶対育てられませんから。なにしろ我儘なお嬢様なので…。

## ●ジャケツイバラ（蛇結茨）

5 月中旬以降、京王高尾線「高尾山口」の駅を降り立ち、南高尾方面を見ると木々の緑の中に黄色い花々が点在しているのを見ることが出来ます。「ジャケツイバラ」です。本州（山形県、福島県以西）から四国、九州、沖縄、遠くは中国、ヒマラヤまで分布しているマメ科の植物です。太くなった幹はゴツゴツしていて恐竜を思わせます。美しい花なのですが、なぜか林業関係者からは嫌われているようで、すぐに切られてしまいます。

目の前で咲いている花を見たい方は「蛇滝林道」はいかがでしょうか。JR 高尾駅発「小仏」行のバスに乗り、「蛇滝口」下車。水行で有名な「蛇滝」に向かう道を進むと左手に林道入口のゲートがあります。林道を 500 m ほど行くと左から圏央道が迫ってきます。足元はトンネルです。その周辺を探してください。写真は 5 月 22 日に撮影しました。でも出会えなければごめんなさい。すぐ切られてしまうので…。





# シリーズ I

## 樹木名の話 (33)

### —ハナゾノツクバネウツギは長すぎる名か—



森林植物研究者 埴田 宏

ハナゾノツクバネウツギという低木は都市の環境下でよく育つことから、公園や道路沿いに多く植えられています。春から秋まで咲き続ける白い花と赤褐色のガクの組み合わせと半常緑の小さな葉が特徴的です。

かな書きで11文字にもなる長い和名について、考察してみましょう。「花園に咲くツクバネウツギ」という意味は覚えやすいのですが、少々長すぎて、いくつかの図鑑ではハナツクバネウツギとされています。園芸業界では、もっと短く、アベリアと呼ばれています。ただ、アベリアはツクバネウツギ属の学名であった、この種だけを指すわけではありません。



公園に多く植えられるハナゾノツクバネウツギ

ハナゾノ・ツクバネ・ウツギと、3つの要素に分解されます。基本名はウツギですが、茎が中空で「空木」と呼ばれるアジサイ科のウツギ（本誌の2019年6月号所載）とは別の分類群になります。葉の形と付き方がウツギに似て、がく片の様子が「羽根つき遊び」のシャトルにあたる「つく羽根」を思わせることから、ツクバネウツギ（スイカズラ科）の基本名が生まれ、さらに、「花園」という修飾語がついたものです。

ハナゾノツクバネウツギの名は牧野富太郎が1931年（植物研究雑誌7巻269頁）に新和名として提案、村越三千男（1933）の『内外植物原色大図鑑』で採用されましたが、牧野図鑑にはこの種が収録されていません。一方、学名由来と思われるハナツクバネウツギという名を採用した図鑑には、辻永（1932）の『萬花

圖鑑 III』や、寺崎留吉（1933）の『日本植物図譜』があります。

通称名のアベリアは属名 *Abelia* のラテン語読み、1816-17年に中国を訪れたイギリスの外交団付き医師クラーク・エイブルが著した中国旅行記に、自身が命名した5つの新種の他、*Abelia chinensis* が新属・新種として記載されています。この部分は植物学者のロバート・ブラウンが書いたもので、採集者のエイブルの名を献じて属名をつけました。この植物（中国名：糯米条）は中国各地で栽培されていた落葉性の低木、移入されたヨーロッパやアメリカで人気を得ました。さらに、紅色の大きな花をつける常緑性の *Abelia uniflora*（中国名：蓮梗花）との交配が行われ、選抜された雑種のひとつがハナゾノツクバネウツギ、英語名で“glossy abelia”、今日の学名では *Abelia × grandiflora*（アベリア・グランディフローラ）です。“grandiflora”は「立派な花」という意味、乗算記号の“×”を前に置くことで雑種起源であることを示しています。

日本の暖温帯から冷温帯に分布する野生アベリアを大きく分けると、コツクバネウツギとツクバネウツギの、2種があり。それぞれに、多数の地方変種が知られ、花が紅色のベニバナツクバネウツギ、黄色のキバナツクバネウツギがあります。山野には多いのですが、都市環境にはあわないようで、あまり栽培されていません。



日本の野生種 ツクバネウツギ



シリーズⅡ

観察会テンパリ日記 (33)



森林インストラクター・樹木医 岩谷 美苗

コロナ下で ZOOM 講座をやったおかげで意外なところからも講師依頼が来るようになり、大学の授業を少しですがやるようになったのですが・・・私は園児向けばかりやりすぎていました。大学生向けにムクロジで泡遊びをして「いい泡だねー泡泡屋さんになれるねー」と言ったところで、盛りあがりませんよね。

教員志望の大学生ならこのようなプログラムは受け入れられますが、そうでなければつきあってもらえない。私は大きい人むけのネタが不足していることに気が付き「どうしよう?」と、てんぱりました。大人向けは朝日カルチャーなどでやっていますが、高校生や大学生はそういう「大人」じゃないんです。園児と同じような遊びをしてもダルそうだし、知的好奇心は満たしつつ、かといって話だけでは相手にしてもらえない・・・手ごわいです。しかも大学の授業は100人とかで、話だけやるのは簡単だけど寝られて楽単と思われたくない!何かやってもらいたい人数が多すぎる問題。そこで、○×プレートを1人に1つ渡して、どう思うか○×で答えてもらう方法で、とりあえず寝かせない作戦と、グループで外に出て指定した落ち葉をさがしてもらう作戦でなんとかしのぎました。

先日、4月に大学1年生の授業を行ったのですが(20人ぐらい)、まだ友達になっていないのか?緊張した面持ちで雰囲気が硬くて「シーン…」な教室でした。大学の先生も「コロナ以降なかなかコミュニケーションが・・・」とおっしゃっていて、それで私には「新生向けに学内の緑の案内をしてもらい、大学に慣れてもらいたい。」とのことでした。学内にはアオダモがあったので、光る樹液で愚痴を書いたり、散歩しながら校舎の隅のカタバミで10円みがいだったり、トベラやモミジバフウの葉っぱの匂いを嗅いでもらいました。人って物を介すと、なんとなく話しやすくなるのかな?ある女子学生がモミジバフウを「小学校で排水溝を掃除する洗剤の匂いがする!キャップが緑の!」と言うと「えー私の学校は粉末だった。」と、学校によって洗剤が違う話になりました。誰の10円が一番きれいだとか、絵のうまい人があるとか、匂いの表現がうまいとか、自然に空気が和みました。今の学生さんはコミュニケーションも課題かも

しれません。私は園児扱い発言がやめられそうにないので、最初に「園児向けばかりやってるから、子ども扱い癖がついてごめんね。」と最初にいう事になりました。





# シリーズⅢ

## 東南アジアの木々たち (60) —モクレン科の花たちの工夫—



自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史

季節が立夏を迎える頃、私の住む東京都内では、モクレン科のホオノキやユリノキ、カラタネオガタマ等が元気に開花しています。

ユリノキは、北米原産の落葉樹で樹高が30mを超えるほど大きく育ちます。街路樹や庭公園樹として、よく植栽されますからご存知の方も多いでしょう。ハチミツを採る“蜜源植物”としても有名ですね。ユリ

ノキの花には、ほとんど“香り”がありませんから、甘い“花の蜜”で受粉してくれる生き物たちを呼び寄せています。

一方、このユリノキとは違って、ホオノキには蜜がありません。では、どうやって受粉してもらうのかと言うと、とても遠くまで届く強く“甘い香り”で、生き物たちを呼び寄せています。



ユリノキ



ホオノキ

さて、この時期どこからともなく“バナナの香り”が漂って来れば、それはきっとカラタネオガタマが近くで咲いているからでしょう。台湾では、この花を芳香剤の様に用いたり、お茶のスパイスに用いたりもし

ています。中国名である“含笑花”とは、内気で少し臆病な少女が“ほほえむ様子”にたとえたものと言われます。(^-^\*)



カラタネオガタマ  
(含笑花)



ギンコウボク

東南アジアのタイでは、ギンコウボク（銀厚朴）の花がバナナの皮に包まれて売られています。高貴な香

りのするこの花を身につけて“香水”の様に利用されています。とっても素敵ですね。(^-^\*)



# 子ども樹木博士質問コーナー(75)

一般社団法人日本森林インストラクター協会 会長 寺嶋 嘉春



**Q** 森に行くと、枝にトゲがある木がいろいろあることがわかりました。トゲは何のためにあるのですか。

**A** トゲがある樹木は、葉や果実が食べられるものも多く、親しみやすく、また、検索図鑑などで「トゲのある木」を調べると、樹種の特が比較的容易です。

## ▶新葉が食べられる樹木

森林の中で、木が風で倒れて明るくなった場所などで、左の写真のような木を見かけることがあります。



ハリギリ (若木)

若木の幹の部分に、見るからに痛そうな大きなトゲがたくさんあるウコギ科のハリギリで、全国各地で見られます。センノキとも呼ばれ、材は、大きなテーブルの天板に使われるほど大きくなる木です。

ウコギ科の樹木には、食べられるものが多く、ハリギリをはじめ、ウコギ、ヒメウコギ、タラノキなどは、若い葉が山菜として利用されます。そして、これらには、トゲがあります。

このことから、植物のトゲは、野生動物に食べられないようにするためにあるのだろうと考えられます。



ハリギリ (成木の樹皮)

## ▶食べられる実がなる樹木

キイチゴの仲間、おいしいイチゴがなるので、野生動物も好んで食べます。そのため、植物は、少しでも食べられにくくするため、キイチゴの仲間には、トゲがあるものがほとんどです。

写真は、モミジイチゴです。モミジイチゴは、おいしい実ができますが、枝には太いしっかりとしたトゲ

があります。

そのほか、ミカン科のカラスザンショウ、サンショウ、カラタチやミカンなどにもトゲがありますが、これらも、野生動物が葉や実を食べにくくするためだと考えられます。

## ▶ツル性の樹木

また、ツル性の樹木で、バラ科のテリハノイバラ(庭に植えられるバラの原種のひとつ)やマメ科のジャケツイバラには鋭いトゲがあります。

ジャケツイバラは、5月頃に黄色い花を咲かせますが、不用意に近づくと、ツルにあるやや下向きのトゲが、服に刺さり、動けば動くほどからみつき、ひとりでは抜け出すことができなくなることがあります。

これらのツル性の樹木は自立できないため、トゲを他の植物にひっかけて上に伸びていくことができます。トゲは、そのために役立っていると考えられます。

皆さんも、トゲのあるいろいろな樹木について、樹木の特徴やトゲの形を観察して、トゲの役割を考えてみてください。



モミジイチゴ



カラスザンショウ



テリハノイバラ



ジャケツイバラ



## ● ● 事務局だより ● ●

### ◆令和6年度森林インストラクター「資格試験」・「養成講習」の日程のお知らせ

(一社)全国森林レクリエーション協会では、令和6年度の森林インストラクター資格試験及び養成講習の日程等について、ホームページ (<http://www.shinrinreku>) などで公表しています。

その概要は次のとおりです。詳細につきましては、全国森林レクリエーション協会の森林インストラクター係 (TEL : 03-5840-7471) までお問い合わせください。

#### ○資格試験

- ◇受験申込みの受付期間 令和6年6月1日(土)～7月31日(水)
- ◇一次試験 (実施日) 令和6年9月29日(日)  
(場 所) 札幌市、仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、高知市、福岡市
- ◇二次試験 (実施日) 令和6年11月16日(土)、17日(日)のいずれか  
(場 所) 東京都
- ◇合格者の発表 令和6年12月中旬
- ◇受験料 18,000円

#### ○養成講習

養成講習 (任意) は、「森林」、「林業」、「森林内の野外活動」及び「安全及び教育」の全4科目を分割して実施する「講習Ⅰ」と、全4科目を連続して実施する「講習Ⅱ」があります。

両講習とも内容は同じで、講習会場はいずれも東京都です。

#### ■講習Ⅱ (オンライン (ライブ同時配信) による講習受講も可能です。)

- ◇講習申込みの受付期間 令和6年6月1日(土)～7月31日(水)
- ◇講習期間 全4科目 令和6年8月10日(土)～17日(土)  
講習料 60,000円 (30,000円)

定員 100名

(注) オンライン講習は、上記日程のうち、8月12日は休講とし、8月31日に振り替えて実施します。

※ 講習料の ( ) 内は学割料金

#### ◆子ども樹木博士認定活動推進協議会新規会員募集

子ども樹木博士認定活動推進協議会では、新規会員を募集しています。

子ども樹木博士認定活動推進協議会は、「子ども樹木博士」の目的をPRし、情報提供などを通じて、その活動を全国的に推進する組織として、①機関誌「子ども樹木博士ニュース」の発行・配布、②子ども樹木博士教材「樹木ガイド」の提供、③子ども樹木博士認定証 (用紙) の提供、④インストラクターの紹介、⑤子ども樹木博士のPRパンフレットの作成・配布、⑥全国の子ども樹木博士の活動状況の取りまとめ及びネットワーク化、⑦子ども樹木博士の実施方法の手引書の作成・配布等の活動に取り組んでいます。

子ども樹木博士認定活動の趣旨に賛同し、子ども樹木博士を実施してみたい、関心がある、またはこれらの活動を支援して下さる団体や個人の皆様の入会をお願いいたします。年会費は、団体会員 10,000円、個人会員 2,000円となります。

○入会申込・問合せ先：下記の子どもの樹木博士認定活動協議会に申込、問合せください。

#### ◆実施結果のご報告のお願い

子ども樹木博士認定活動 (親子や大人を対象としたものも含みます。) を実施しましたら、当協議会会員、非会員を問わず、実施結果のご報告をお願いします。

報告用紙は、右記のURLのホームページからWordの用紙をダウンロードできます。報告用紙がない場合は、①実施団体名、②実施年月日、③募集人数、④参加人数、⑤対象者 (小学生、親子など)、⑥実施場所を記載したメモを右記のFAX又はメールで子ども樹木博士認定活動推進協議会までお送りください。お手数をおかけしますがよろしくお願いいたします。

### 子ども樹木博士ニュース

2024年6月1日 No.95

#### 子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6階  
一般社団法人全国森林レクリエーション協会内  
TEL : 03-5840-7471 FAX : 03-5840-7472  
E-mail : kodomohakase@shinrinreku.jp  
URL : <http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html>  
<http://www.shinrinreku.jp/kodomo-n/main.html>